

あやま 過たぬ人の営み

「人はその日の営みを続けなければなりません。生きるため、ひたすら水を引き、木を植えて緑を増やし、営々と田畑と林を作る。これが過たぬ人の営みであり、全ての人が協力すべきことであり、郷土の安全の基礎だと思います。」

——中村 哲 (ベシャワール会報109号、2011年)

農地の回復を目指して

——バラコット灌漑事業は着々と進行中です

PMS (ピース・ジャパン・メデイカルサービス) 副院長/ジャララバード事務所所長 ジアウルラフマン

約一万四千人の支援へ

皆様の変わらぬご支援に対し、私たち一同はいつも深く感謝いたしております。今回は、バラコットで始まった新しい事業について少し具体的にご報告します。

バラコットはナンガラハル州南部コット郡に位置しています。

人口は約十六万三千人で、面積四五〇km²のうち総農地面積は二四〇〇ha (二四km²)です。コット郡は二〇一五年頃から現政権になるまでの間、治安が悪化し、激しい戦闘で家屋や農地の大半が破壊されました。住民は安全な場所を求めて、大半がパキスタンのベシャワールに避難していました。

二〇二一年八月の政変後は平和になってきたので、住民は故郷に帰って来ましたが、あらゆる経済的困難に直面しています。ご存知のように、アフガン人のほとんどは農業収入で生計を立てています。しかし、コット郡の農地は荒れ果て、農業ができる状態ではないのです。

切土^{きど}工事はほぼ完了

我々PMSに取水施設を建設して欲しいというバラコット住民の願いを、地元のシユーラ (評議会) が灌漑局に請願しました。灌漑局からこの件がPMSに伝えられた後、我々は日本の本部に相談しました。日本の技術支援チームとPMSが議論を重ねに重ねた結果、バラコット灌漑事業は承認されました。そして灌漑局とPMSの事業契約が結ばれ、昨年十月に着工。工期は一年で二〇二三年九月三〇日に完工を予定しています。この用水路が開通すれば、新たに約五〇〇haの農地が灌漑され一一四〇世帯が直接に、二八五世帯が間接的に恩恵を受け、推定一万四二五〇人の住民を本プロジェクトが支援することになります。

現在、現場に地元の作業員を三二名、資機材置き場に昼夜駐在するテントガード十二名を配置し、PMS所有の掘削機二台、ローダー二台、ダンプカー四台、水タンカー一台に加えてレンタルの掘削機六台を稼



滞在先のホテルで会議をするベシャワール会とPMSのスタッフら。
(2022年12月28日)

働かせています。現在、用水路が通過する山の側面の切土工事は、全長四三〇〇mのうち四二〇〇m地点までを終えています。コット郡はジャララバード事務所から遠いため、工事現場近くに職員の宿舎を借りています。そこを現場事務所としても使用し、職員の出欠確認や工事の進捗状況をジャララバード事務所に報告するようにしています。また、ジャララバード事務所から職員一名が毎日現場へ出向き、次のような仕事をしています。①現場からのリクエストに応じて建設資材を届け、資機材全ての在庫を確認。②重機や車両への燃料の補給。③作業員の人数と仕事内容の確認。

コットでは、人が生きていくために必要不可欠な支援が実施されるのは初めてのこととて、地元の人々はPMSの本プロジェクトを心から喜んでいきます。

日本からの訪問団を歓迎

二〇二二年十二月二〇日から二九日の期間、日本の本部から八名(村上PMS総院長、藤田院長補佐、エンジンニアサーブ大和、PMS支援室員ほか)がアフガニスタンを訪問されました。PMS職員とナンガラハル州政府当局は、パキスタンとの国境トルハムで迎えしました。

この一行はPMSの活動を視察し、各事業実施地域では地元住民の温かい歓迎を受けられました。またバラコット灌漑事業の現場では、PMS職員たちが一生懸命に働

ている姿に大変喜んでおられました。技師の大和サーブからは、PMSの技術チームにご指導と励ましを頂きました。

二九日、訪問団のうち五名がカブール国際空港から日本に帰国。シスター藤田、榎井さん、山下さんは二〇二三年一月四日までアフガンに滞在し、マルワリード、シギ、ミラリン、タンギトウクチャーの取水施設とガンベリの農業プロジェクトを視察して日本に戻られました。PMSの私達も皆さんと本当に久しぶりに再会できて、とても嬉しく思いました。また皆さんとPMSの任務や今後についての協議もしました。これからも是非何度も繰り返し来訪して頂きたいと願っています。まさに「百聞は一見に如かず」と思うからです。心からの敬意をこめて